

まめなかの

発行責任者
隠岐広域連合立
隠岐病院長
隠岐の島町城北町

隠岐病院の現況について



院長 長谷川明広

島民の皆様には、新型コロナウイルス感染症の影響で、面会制限など大変ご迷惑をお掛けしております。ワクチン接種が普及し重症化を防いでいますが、ウイルスも新たな変異を続けており、まだまだ終息の見通しが立たない中、島民の皆様から心強いご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、当院は新病院が開院してから10年目を迎えています。令和

4年度は17診療科、22人の常勤医師（歯科医師2人を含む）と大学等からの非常勤医師派遣の支援を得て、隠岐圏域の中核病院として、コロナ渦であつても24時間体制の救急外来、緊急入院、緊急手術、透析外来、島外医療機関からの転院患者の受け入れ機能を維持することを目標に掲げています。

日常の外来については、島で唯一の病院であるために複数科を受診されることも多く、一日平均430人と同規模病院のおよそ2倍多いのが特徴です。当院で完結出来る医療を提

供していくことが大きな目標ですが、高度医療や緊急の処置・治療が必要な疾患については、島外の高次医療機関に紹介または当院へリポートからの緊急搬送（年間約100件）を基本としていきます。実際には、高度急性期患者の65〜60%、回復期患者の40%の治療は島外医療機関で行われており、高齢者等の社会的弱者が当院での治療対象となる傾向にあります。

隠岐の島町の高齢化はすでに40%を超えて超高齢化社会を迎え、治癒や完全な回復が望めない患者や認知症、独居高齢者、複数の疾患や複雑な問題を抱える高齢者が増えており、とりわけ独居高齢者の退院調整に苦慮することが多いのが現状です。いかに我が町で安心して暮らせるか地域包括ケアシステム（保健、医療（診療所）、介護、福祉）と連携しながら「高齢者を支える医療」の提供が大きな目標となつて来ています。

国が推進する訪問診療・訪問看護については、医師不足・看護師不足もあり思い描くような在宅診療はまだまだ実現出来ませんが、令和2年10月に幅広い分野で診療ができる総合診療科を立ち上げ、また特定行為が出来る診療看護師を採用し、化学治療や麻薬管理が必要な場合など

医療度が高い場合には訪問診療を行なっています。

入院管理、在宅診療を充実していくには医療スタッフの充足が必要ですが、かつては医師の使命感に依存してきた離島医療ですが、2024年度からは「医師の働き方改革」が開始され、医師の時間外勤務の制限や一人診療科にあつては外来診療の休診等もある時代になります。島民の皆様には、出来るだけ時間外の受診を控えて頂きたいことや医師との面談などは平日の時間内出来るようご協力をお願いするともに、近い将来、隠岐病院と町立診療所が一体となり島の医療を守るシステム作りが必要だと考えています。

次に、新型コロナウイルス感染症についてですが、当院は隠岐圏域の重点医療機関として46人（5月24日時点）の中等症までの入院患者を管理してきました。コロナ病棟としての人員確保のため、一般病棟では限られた医療スタッフで頑張っています。



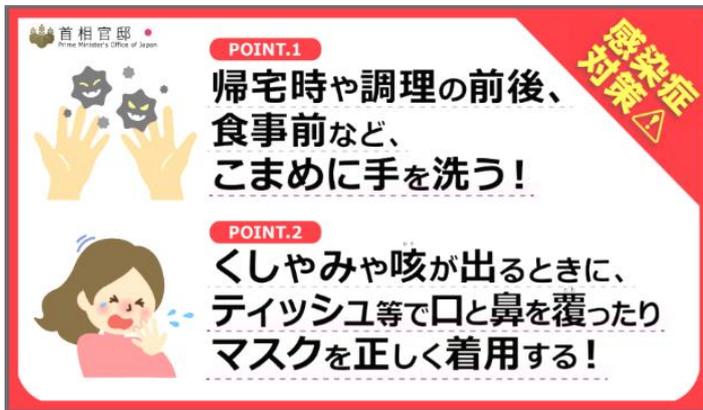
感染拡大を防ぐことが大事ですので、病院の対策として、発熱などの症状のある方は、事前に電話連絡をして問診の上、感染症外来を受診して頂きます。また、直接受診される場合でも、病院の玄関前で職員が問診（トリアージ）を行います。

発熱等の症状のある方で、抗原定量検査において陽性が確認された場合には、当院から隠岐保健所に届け出をし、入院か自宅療養かの判断は、隠岐保健所（または島根県入院調整本部）が行います。隠岐の島町の現在の場合には、自宅療養となった場合には、感染者の在住する地区の医師・看護師が担当し、症状が悪化した場合には当院に相談するシステムです。

最後に、病院経営についてですが、令和元年度から重点的に経営改革に取り組み、単に経費の削減を図るだけでなく、必要な医療も確保できるように職員一体となって対応しており、今年度は病棟の改築を行い、地域包括ケア病棟53床、急性期病棟38床に再編成する予定です。

院長として、「隠岐圏域の中長期的な地域医療構想」を見据えながら「柔軟性と謙虚な気持ち」を

持つて様々な課題に対して対応し、当院の理念である「この島に住む、安心の医療」に努めて参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。



皮膚科外来及び腎臓内科外来の診療体制について

当院の皮膚科外来及び腎臓内科外来は他院からの専門医が来島して診察を行うため、診察日が限られており完全予約制の診療体制としております。

受診を希望される方はかかりつけ医の先生に**紹介状**と**予約**をいただいてから受診されるようお願いいたします。当院の医師がかかりつけ医の場合はかかりつけ医の診察後、必要に応じて皮膚科又は腎臓内科に**予約**をする形の診察となります。

ご迷惑をおかけしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

令和4年度

診療部を紹介いたします。



まつお すずむ
松尾 進
統括副院長
(外科)



はせがわ あきひろ
長谷川 明広
院長
(産婦人科)



すけなが ちかひこ
助永 親彦
副診療部長
(麻酔科)



かとう いちろう
加藤 一郎
副院長
(産婦人科)



ありた しげお
有田 茂夫
副院長
(精神神経科)



しげたか ともひろ
重高 智弘
整形外科副部長
(整形外科)



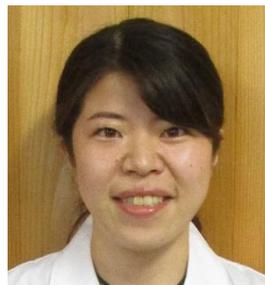
おかもと なおき
岡本 直記
眼科部長
(眼科)



さかきばら さとし
榊原 賢司
麻酔科部長
(麻酔科)



あべ やすひろ
阿部 恭大
小児科部長
(小児科)



ふくもと みきこ
福本 実希子
外科医長
(外科)



ふくしま るりこ
福島 瑠璃子
産婦人科医長
(産婦人科)



おきた さとし
沖田 聡司
整形外科医長
(整形外科)



鈴木 真紀
総合診療科医員
(総合診療科)



角 芽美
総合診療科医長
(総合診療科)



福島 俊太郎
総合診療科医長
(総合診療科)



吉村 美咲
総合診療科副部長
(総合診療科)



松井 雅貴
外科医員
(外科)



高津 研翔
総合診療科医員
(総合診療科)



大澤 悠
総合診療科医員
(総合診療科)



森江 祥平
総合診療科医員
(総合診療科)



芹田 晃道
診療支援室長
(診療看護師)



高橋 尊史
歯科口腔外科医長
(歯科口腔外科)



金子 一朗
歯科口腔外科部長
(歯科口腔外科)



車イス寄贈式

ありがとうございました！



隠岐島内において、地域活性化に取り組んでおられる「NPO法人隠岐しおさい」様から、5月23日に車イス2台の寄贈をいただき、寄贈式を行いました。

寄贈いただいた車イスは、横側からも座れることができる最新式の2台であり、病棟やリハビリ等で有効に活用させていただきま

す。

本当にありがとうございました。